宮田直彦のエリオット波動レポート

マーケット見通し(短期アップデート) 11 月 19 日 11:34AM 更新

[日経平均・TOPIX]

【当面の想定レンジ】(日経平均) 50,000～65,000 円
(TOPIX) 3400～3990

[NY ダウ・S&P500]

【当面の想定レンジ】(NY ダウ) 45,000～53,500 ドル
(S&P500) 6300～7700

[ナスダック 100]

【当面の想定レンジ】(ナスダック 100) 23,500～28,800
(ナスダック総合) 20,700～26,000

[米ドル/円]

【当面の想定レンジ】 140.000～161.400 円

[ドルインデックス(ドル指数)]

【当面の想定レンジ】 98.000～104.600

(おしらせ)本レポートの次回号は 12 月 1 日(火)の発行を予定しています。ご不便をおかけいたしますが、なにとぞご理解のほどよろしくお願いいたします(宮田)。

エリオット波動とは

株式・為替動向を予想する心強いテクニカル手法

米国人ラルフ・ネルソン・エリオットが提唱した、今後の株式や為替など市場価格の動向を予想する手法です。

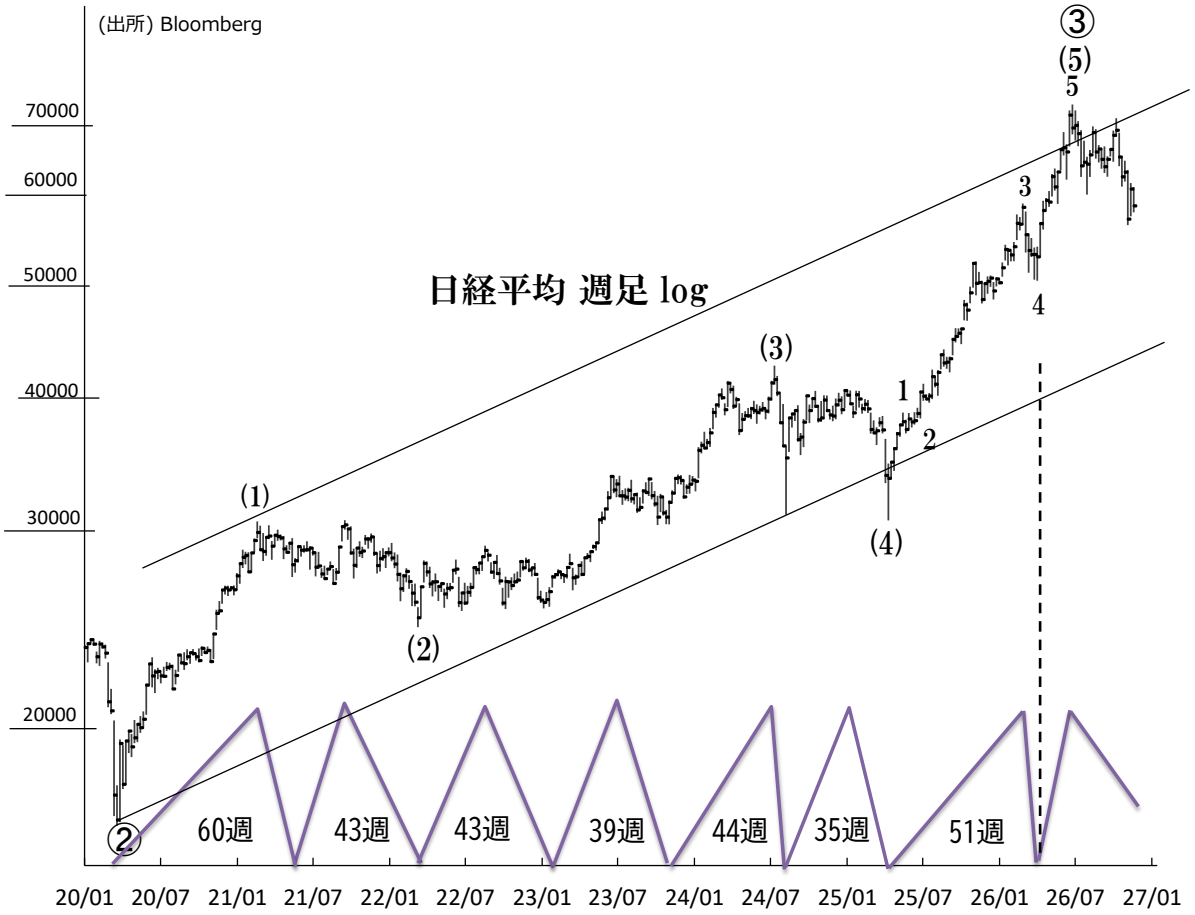
相場は 5 つの上昇波と 3 つの下降波（合計 8 つの波）で一つの周期を作るパターンに従って展開するとされます。

このパターンは集団心理によるもので、数分から数十年といった様々な時間軸において観察されます。

フィボナッチ数列、黄金分割比率をチャート分析に初めて導入したのもエリオットです。

© MONEY SQUARE, INC.
This Report is for Authorized Recipients Only and Not for Public Distribution.

日経平均・TOPIX



【週足 エリオット波動分析】

72,831 円(6/22 高値)以来、プライマリー第④波の弱気相場が進行中です。

3 月末(50,558 円)からの週次サイクル(今週は 34 週目)は、弱気相場に特有の「レフト・トランスレーション(右肩下がり)」になるとみられます(サイクル内の上昇期間より下落期間が長くなります)。

3 月安値から 6 月高値(サイクルトップ) までは 13 週間(両端入れ)を要しました。サイクルトップからは今週は 22 週目(合計 35 週)です。サイクル全体は 37 週～53 週(※1)であり、日経平均は 12 月第 1 週～来年 3 月まで軟調な展開が続くと予想されます(後述するように 12 月第 2 週の注目度が高い)。

「レフト・トランスレーション」では通常、サイクル終点の価格はサイクル始点の価格を下回ります。
したがって今サイクルが完了するまでに、日経平均は 50,558 円を下回ると想定できます(※2)。
なお年末値が 50339.48 円未満だと 4 年ぶりの年間マイナスになり、今サイクルが始まった水準(50,558 円)とほぼ同じになります。

(※1)週次サイクル期間(2020 年以降の補正後)は 45 週±8 週(37 週～53 週)。
(※2)サイクルの高値から安値まで、下げ率は 10%～26%(平均 17%)。今サイクル安値が 50,558 円未満と仮定すると、現行サイクルの下げ率は 30%を超えることになる。

© MONEY SQUARE, INC.
This Report is for Authorized Recipients Only and Not for Public Distribution.



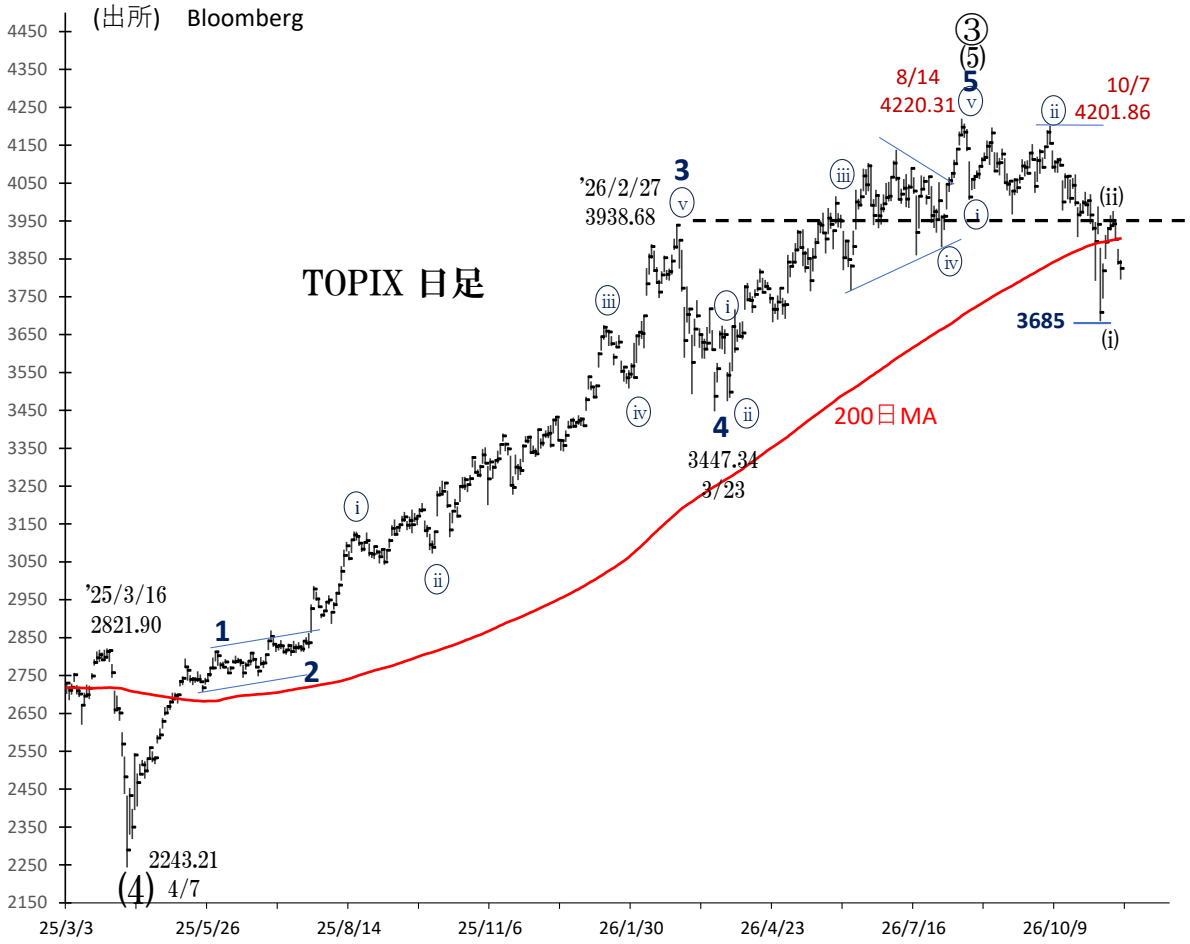
【日足 エリオット波動分析】

56,745 円(11/6 安値)からのリバウンドは、61,902 円(11/13 高値)で完了したとみられます。

前述のように、今年 3 月安値(50,558 円)からの週次サイクルによれば、日経平均は早ければ年末までに 50,558 円を下回る可能性があります。

週次サイクルが終わるのに適当な候補のひとつとして、12 月第 2 週(7 日～11 日)とその前後を挙げることができます。12 月第 2 週は 12 月 11 日(金)のメジャーSQ を含みます。加えてこの時期に、6 月高値からの 6 カ月信用期日が到来します。

© MONEY SQUARE, INC.
This Report is for Authorized Recipients Only and Not for Public Distribution.



[TOPIX]

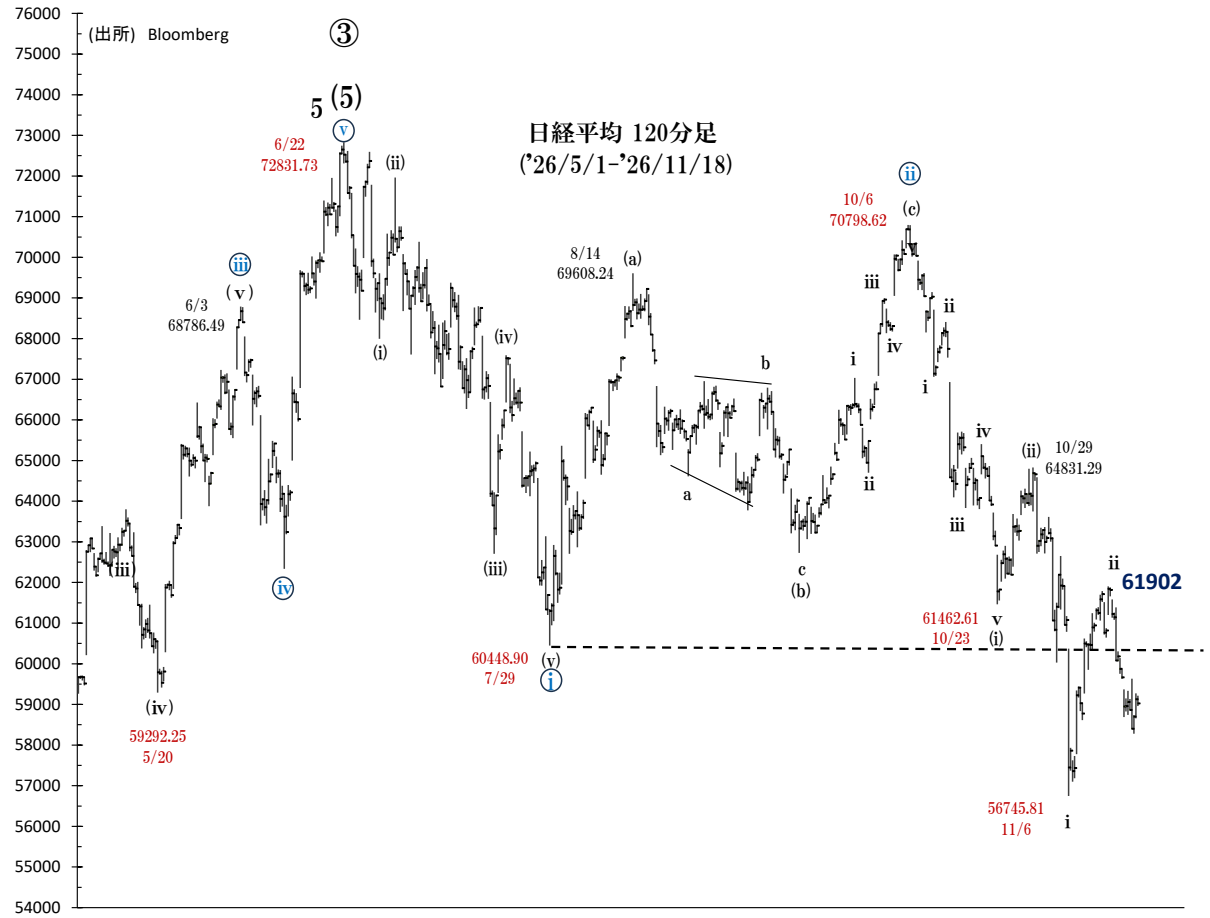
20 年 3 月底からのプライマリー第③波は、日経平均では今年 6 月 22 日、TOPIX は 8 月 14 日に、各々完了しました。これら指数は高値時期が異なる「未確認天井」です。
以来、プライマリー第④波が進行中です。

最終的に第④波の下げは、第②波(2018 年 1 月～20 年 3 月)の下げ率(37.2%)と同程度か、あるいは凌駕するスケールになるでしょう。

11 月 17 日の日足はマドを空けて下げました。この日は 200 日 MA を「跨ぐ」急落であり、それはサポートのブレイクを強く印象づけています。3685(11/6 安値)からの第(ii)波によるリバウンドは、3975(11/13 高値)を以て完成した可能性が高い、とみられます。

以来、マル iii 波の(iii)波(サード・オブ・サード)の強い下落がスタートした可能性があります。
そうであれば TOPIX は、3685(11/6 安値)を早々に下回るでしょう。

© MONEY SQUARE, INC.
This Report is for Authorized Recipients Only and Not for Public Distribution.



[日経平均・120 分足]

70,798 円(10/6 高値)から、マル iii 波による下落が進行中です。

マル iii 波の下値目標値[50,763 円]・・・マル iii 波の下落幅がマル i 波の 1.618 倍になる水準

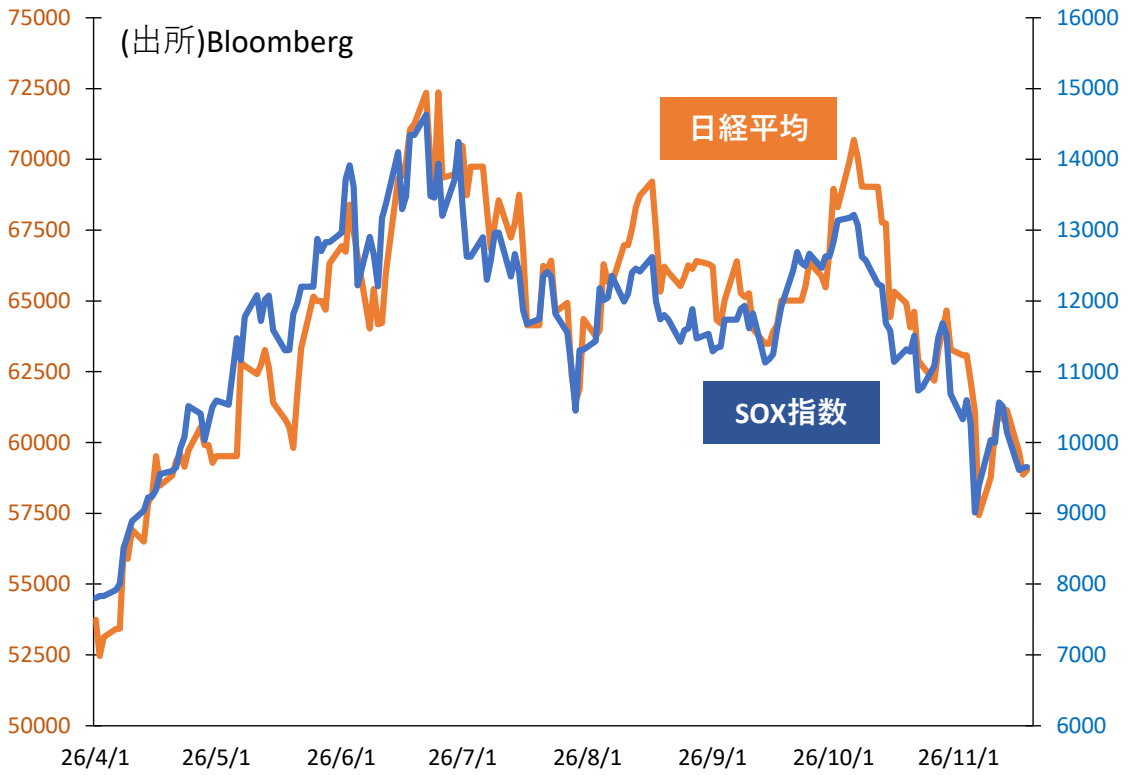
56,745 円(11/6 安値)からのリバウンドは、61,902 円(11/13 高値)を以て完成したとみられます。

以来「マル iii 波-第(iii)波-第 iii 波」による下落が展開中とみられ、それは 56,745 円を早々にブレイクする可能性があります。

© MONEY SQUARE, INC.
This Report is for Authorized Recipients Only and Not for Public Distribution.

日経平均と SOX 指数

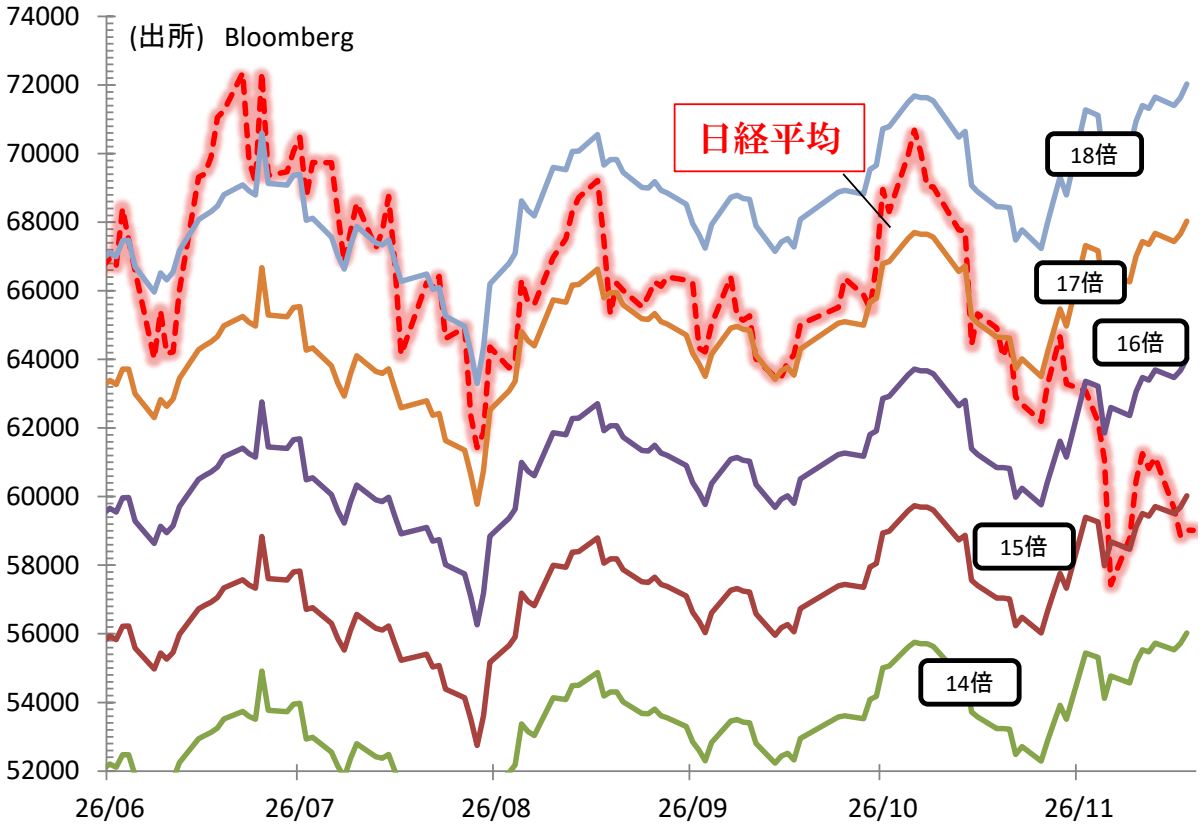
日経平均と SOX 指数はシンクロしています。



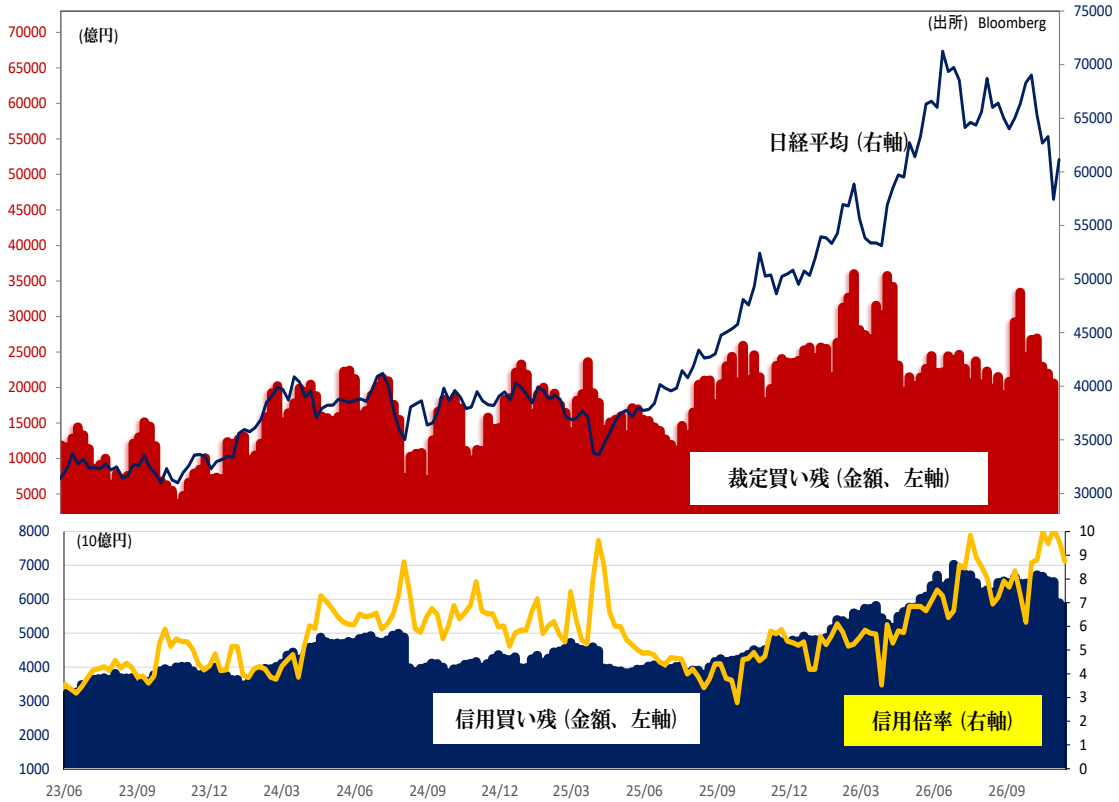
© MONEY SQUARE, INC.
This Report is for Authorized Recipients Only and Not for Public Distribution.

[予想 PER 別の日経平均水準]

11 月 18 日の日経平均予想 PER は 14.75 倍、予想 EPS は初の 4000 円台乗せ(4001 円)です。



[裁定買い残と信用買い残] (11 月 13 日時点)



© MONEY SQUARE, INC.
This Report is for Authorized Recipients Only and Not for Public Distribution.

NY ダウ・S&P500



【NY ダウ 30 日足 エリオット波動分析】

NY ダウは、4 月下旬からの「メガホントップ」天井パターンからの下放れが続いています。

53,710 ドル(11/5 高値)以来、マル iii 波の下落が進行中とみられます。11 月 18 日は 200 日 MA を明確に下回りました。

18 日は一時 50,029 ドルまで下げましたが、終値の 5 万ドルは維持されました。大台替わりが意識された形ですが、節目を明確に下回るのは時間の問題でしょう。

当面は 3 月からの上昇の半値押し[49,900 ドル]、3 月からの上昇に対する 61.8%押し[48,757 ドル]などを目指すでしょう。

そして第(iii)波自体、より大きな弱気に発展する可能性が高いでしょう。

© MONEY SQUARE, INC.
This Report is for Authorized Recipients Only and Not for Public Distribution.



【S&P500 日足 エリオット波動分析】

7350(11/5 安値)からのマル ii 波によるリバウンドは、7652(11/12 高値)を以て完了した可能性が高い、とみています。

そうであれば、マル iii 波による下落トレンドが始まっています。18 日は終値ベースで 200 日 MA を下回りましたが、それは当面の下落バイアスを強めるきっかけになるでしょう。

短期的にも 6 月安値の 7237 をブレイクする可能性が高いとみます。もしそうなれば、次は[7080-6900]を目指すでしょう。

[7080-6900]…3 月から 10 月までの上昇の 50%-61.8%押し

© MONEY SQUARE, INC.
This Report is for Authorized Recipients Only and Not for Public Distribution.

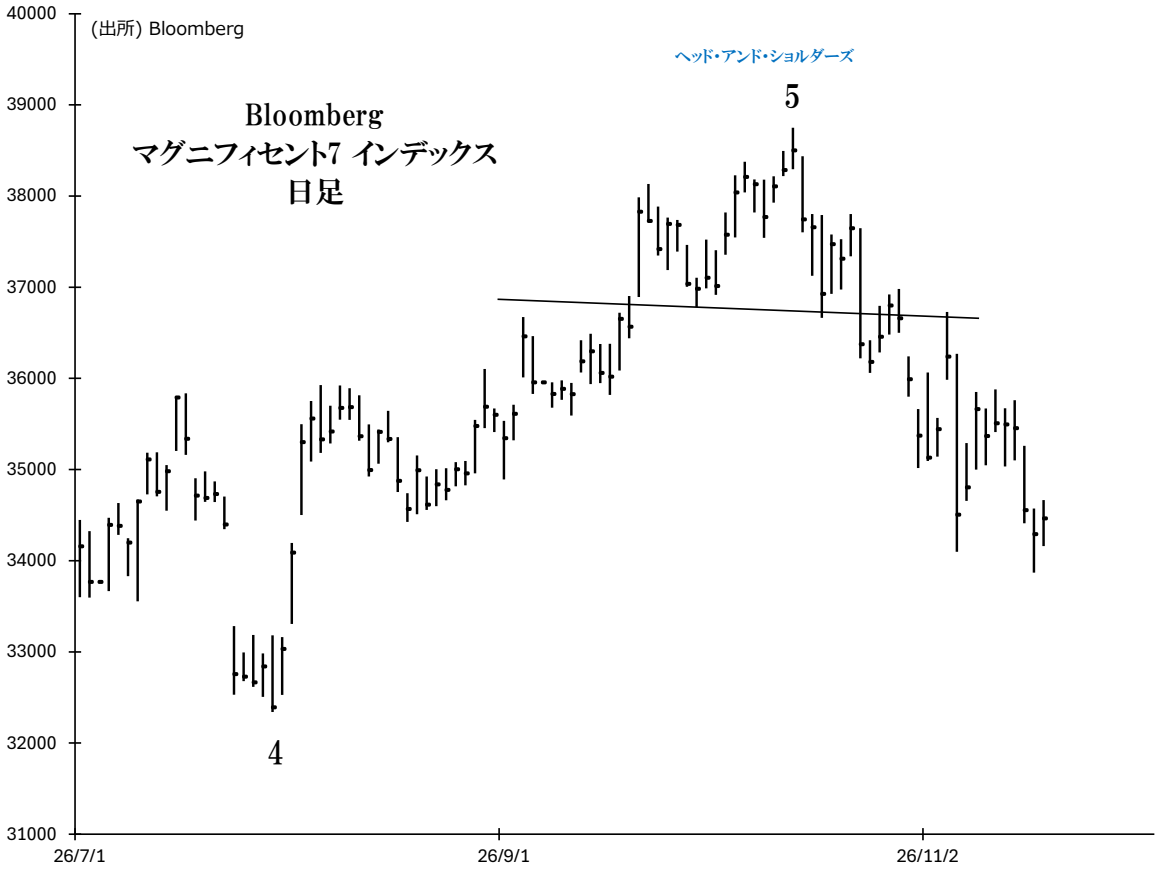


SOX 指数

半導体株ブームは既に過ぎ去り、SOX 指数はいまバブル崩壊のプロセスを辿っているとみられます。最終的な底打ちはまだ先のことでしょう。

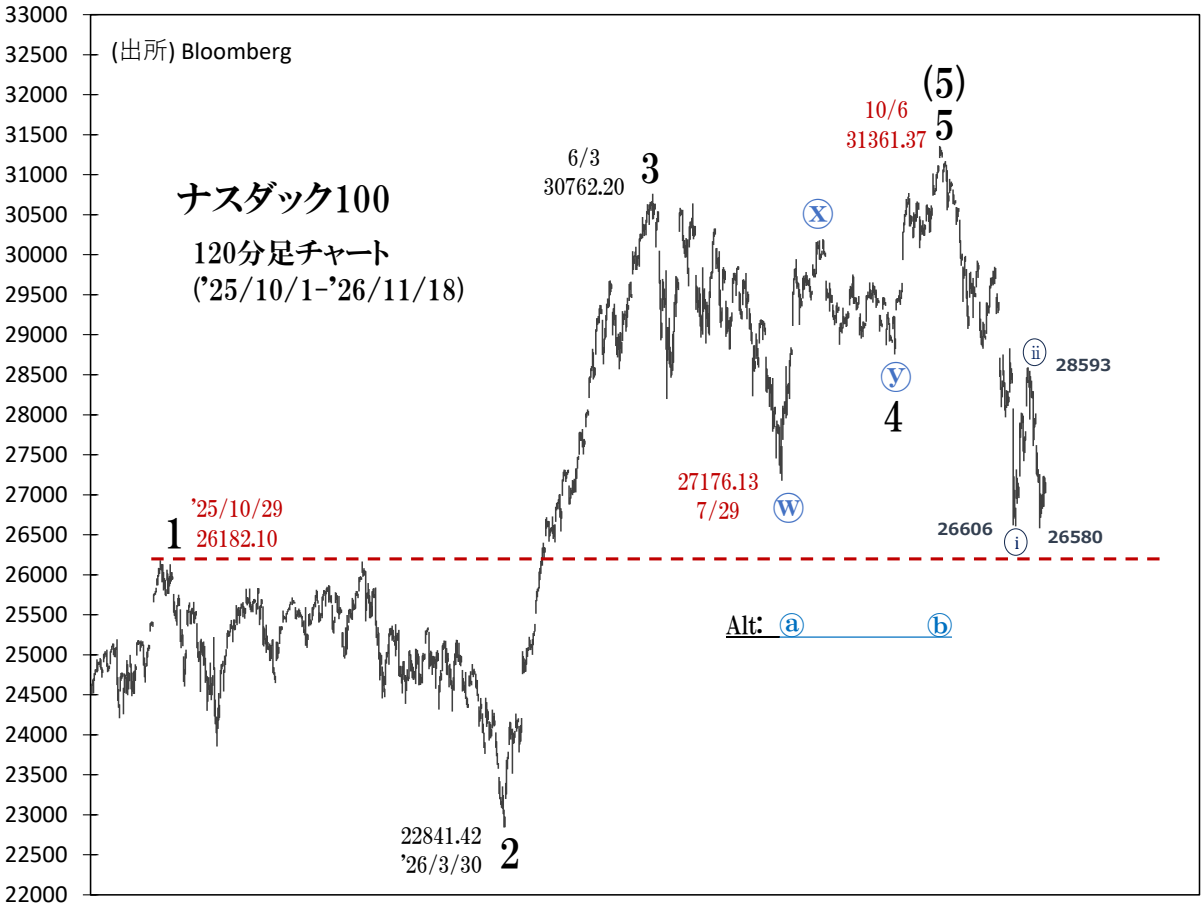
この先は 6 月高値の 50%-61.8%押し[7327-5598]へ下押す可能性があり、引き続き警戒を要します。

© MONEY SQUARE, INC.
This Report is for Authorized Recipients Only and Not for Public Distribution.



© MONEY SQUARE, INC.
This Report is for Authorized Recipients Only and Not for Public Distribution.

ナスダック 100



【ナスダック 100 時間足 エリオット波動分析】

26,606(11/5 安値)からのマル ii 波によるリバウンドは、28,593(11/11 高値)を以て完了したとみられます。18 日は一時 26,580 まで下げ、およそ 7 カ月ぶり安値を付けました。

足元はマル iii 波による急落トレンドに位置付けられます。そんななか、25 年 10 月高値・26,182 が引き続き注目ポイントです。それを割ると下落モメンタムは一段と強まり、3 月安値(22,841)を早々に試す可能性が高まります。

※ナスダック総合指数は、11 月 17 日の安値(23,989)が 25 年 10 月高値(24,019)を一時下回りました。これは、ナスダック 100 の今後を先取りした弱気シグナルかもしれません。

(オルタナティブカウント、Alt)

インターミディエイト第(5)波におけるマイナー第 4 波が「エクスパンディッド・フラット」で展開しており、31,361(10/6 高値)からはマル c 波に相当します。マル c 波は 26,182 を割ることはありません。

一方 26,182 を一時的にも下回れば、今がマイナー第 4 波という見方は却下され、本格的なベアマーケット入りを確認します。

© MONEY SQUARE, INC.
This Report is for Authorized Recipients Only and Not for Public Distribution.

米ドル/円



【月足・エリオット波動分析】

日米実質金利差から導かれる米ドル/円の水準は、現在 1 ドル=145-148 円程度です。
さらに、購買力平価からの妥当な円相場は OECD 算出の GDP ベースで 1 ドル=97 円～103 円です。
短期的にも長期的にも、日本円の過小評価が続いています。

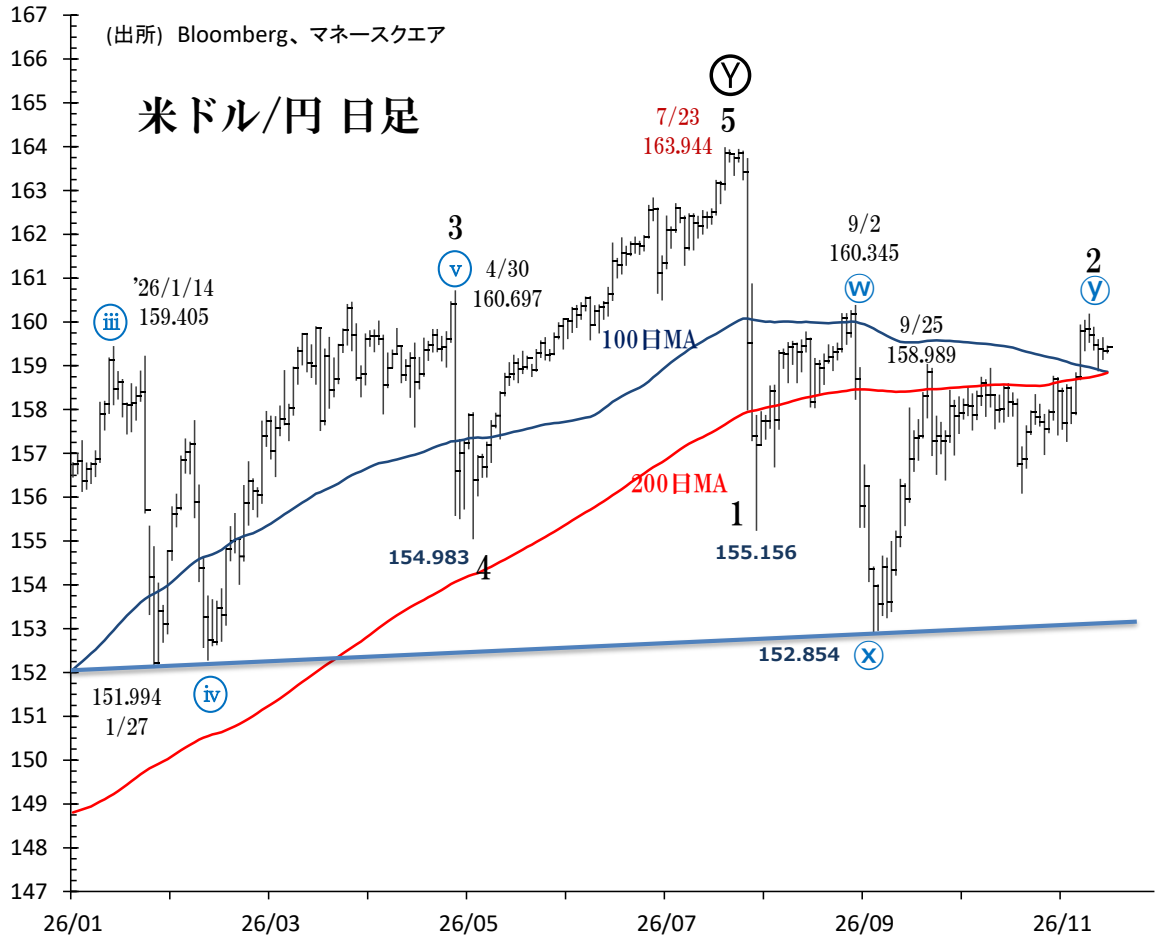
この先は数年間にわたる円高になるでしょう。7 月末の日米協調円買い介入は、長期円安終了のサインでした。長らく日本円はその実力に比べ過小評価されてきましたが、今後は実力に見合った適正な水準が模索されていくと思われます。

他にも長期的な円安終了の証左として、「リフレ終了」をあげることができます。
2013 年 1 月【政府・日銀が物価安定目標 2%を掲げる】…「リフレ政策の始まり」
2026 年 10 月【日銀、物価目標 2%到達と判断】・・・「リフレ政策の終わり」

2013 年 1 月当時は 1 ドル=90 円程度でした。そこから 26 年 10 月までの 13 年 9 カ月(165 カ月) は、まさに円安の時代といえますが、それが新たな時代に移り変わろうとしています。

筆者は今後数年内(2028 年?)に、1 ドル=120 円-125 円を付けてもおかしくない、とみています。それは歴史的なレンジ[80 円-160 円]の中値に相当し、かつて「黒田シーリング」と言われた水準でもあります。

© MONEY SQUARE, INC.
This Report is for Authorized Recipients Only and Not for Public Distribution.



【日足 エリオット波動分析】

155.156 円(8/3)からの第 2 波は終わったか、終わりつつあるとみています。

第 2 波の後には、第 3 波による強い円高トレンドが続きます。

年末にかけ米株安が一段と強まってくれば、米 FRB の 12 月利上げ(現在は 0.25%上げが規定路線です)は見送られる可能性さえあるでしょう。

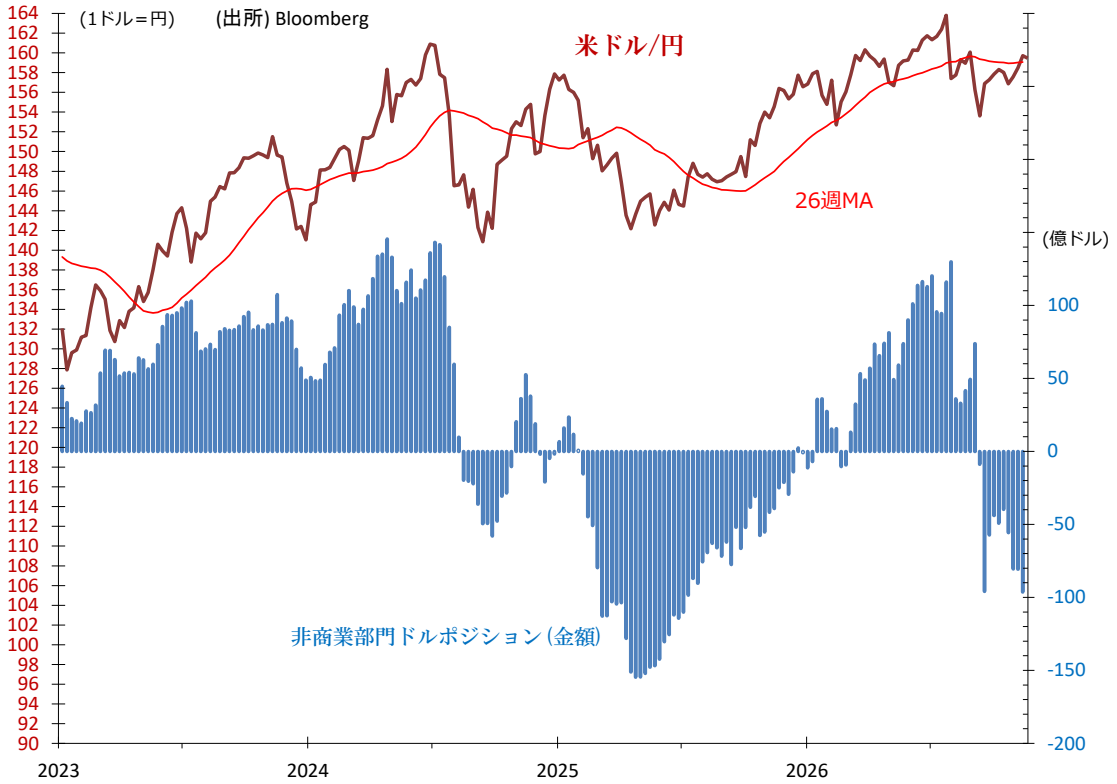
そんな中で、今後「リスク回避の円買い」が強まる可能性は高い、とみています。

金利差からのドル/円推計値

足元、日米実質金利差からのドル/円推計値は[145.635 円]です。

© MONEY SQUARE, INC.
This Report is for Authorized Recipients Only and Not for Public Distribution.





円買い持ち高が拡大（2026 年 11 月 10 日時点）

IMM 通貨先物市場で投機筋（非商業部門）による円買い持ち高は、前週の 80.70 億ドルから 96.35 億ドルへ拡大しました。

© MONEY SQUARE, INC.
This Report is for Authorized Recipients Only and Not for Public Distribution.

ドルインデックス（ドル指数）



【エリオット波動分析】

今年 1 月からのドル高・(X)波（A-B-C 編成）のうち、B 波「フラット」は 98.557(8/21)で完了し、以降のドル高は C 波に位置付けられます。

11 月 18 日には一時 103.911 と、25 年 4 月以来のドル高水準を付けました。これにより、[103.654](A 波と C 波が等しく上がる水準)を達成しました。

さらに、1 月からの上昇は（C 波完成に必要な）5 波動構成となっています。

需給面では、投機筋によるドル買い持ち高が歴史的な高水準で推移しています。
C 波及び（X）波はいつ終わってもおかしくなく、ドル安トレンドの再開が近いと思われます。

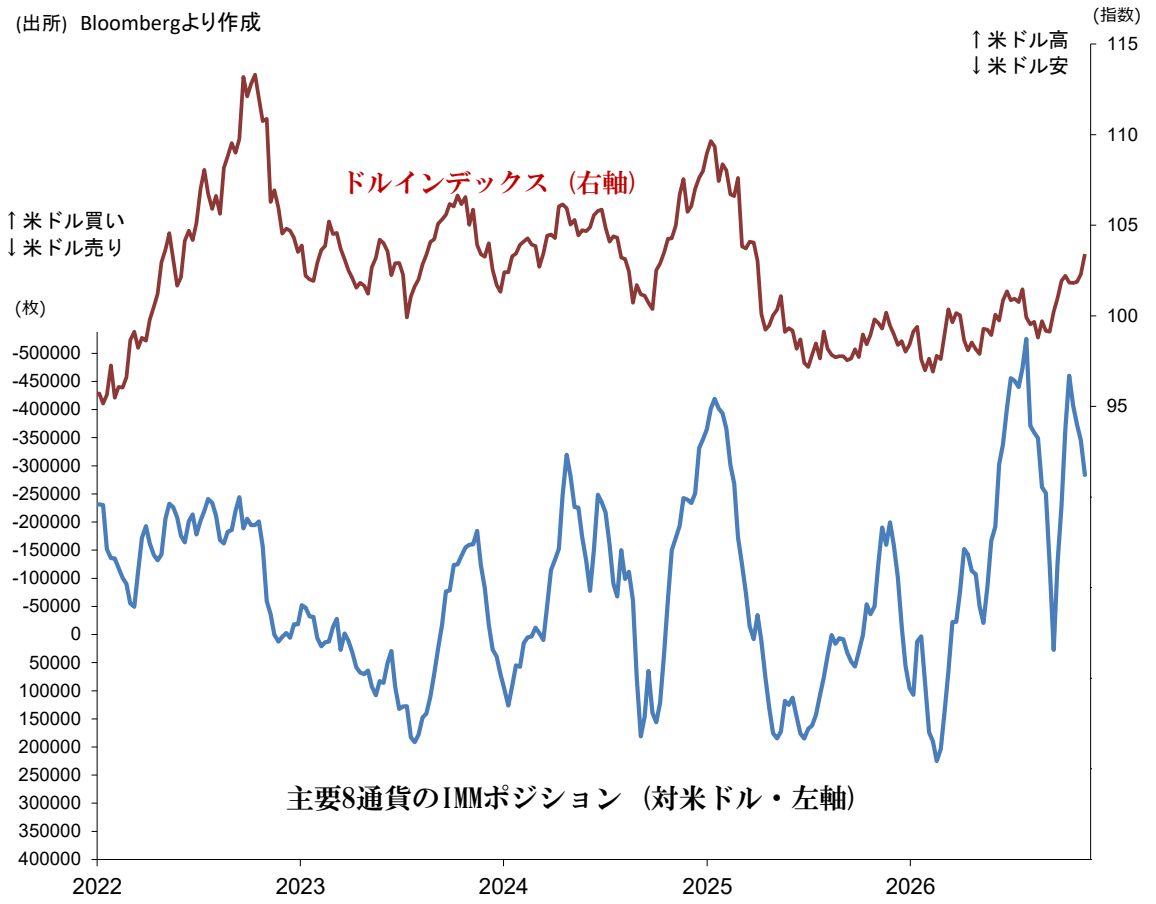
一方ドル高継続の場合、次の節目は[104.589]となります。これは、(Y)波の 61.8%戻し水準です。

投機筋のドル合成ポジション買い持ちは高水準を維持（2026 年 11 月 10 日時点）

投機筋によるドル合成ポジションのドルの買い持ちは、28 万 3570 枚。前週 34 万 5110 枚から減少しました。買い持ちの減少は 4 週連続です。なお対ドルのユーロ売り持ち高は 11 年ぶりの大きさです。

© MONEY SQUARE, INC.
This Report is for Authorized Recipients Only and Not for Public Distribution.





© MONEY SQUARE, INC.
This Report is for Authorized Recipients Only and Not for Public Distribution.

※当レポートは、情報提供を目的としたものであり、特定の商品の推奨あるいは特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。
※当レポートに記載する相場見通しや売買戦略は、ファンダメンタル分析やテクニカル分析などを用いた執筆者個人の判断に基づくものであり、予告なく変更になる場合があります。また、相場の行方を保証するものではありません。お取引はご自身で判断いただきますようお願いいたします。
※当レポートのデータ情報等は信頼できると思われる各種情報源から入手したものですが、当社はその正確性・安全性等を保証するものではありません。
※相場の状況により、当社のレートとレポート内のレートが異なる場合があります。

当社サービスに関しての注意事項

・取引開始にあたっては契約締結前書面をよくお読みになり、リスク・取引等の内容をご理解いただいた上で、ご自身の判断にてお願いいたします。

・当社の店頭外国為替証拠金取引および店頭 CFD 取引は、元本および収益が保証されているものではありません。また、取引総代金に比較して少額の資金で取引を行うため、取引の対象となる金融商品の価格変動により、多額の利益となることもありますが、お客様が差し入れた証拠金を上回る損失が生じるおそれもあります。また、各金融市場の閉鎖等、不可抗力と認められる事由により店頭外国為替証拠金取引および店頭 CFD 取引が不能となるおそれがあります。

・店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引における取引手数料は無料です。

・当社が提示するレートには、買値と売値に差（スプレッド）があります。流動性が低くなる場合や、天変地異または戦争等による相場の急激な変動が生じた場合、スプレッドが広がることがあります。

・店頭外国為替証拠金取引に必要な証拠金額は、個人のお客様の場合、取引総代金の 4%以上です。法人のお客様の場合、取引総代金に、金融先物取引業協会が算出した通貨ペアごとの証拠金率（為替リスク想定比率）を基に当社が算出した証拠金率を乗じた金額となります。為替リスク想定比率は、金融商品取引業等に関する内閣府令第 117 条第 27 項第 1 号に規定される定量的計算モデルを用い算出します。なお、証拠金率（為替リスク想定比率）は変動いたします。店頭 CFD 取引に必要な証拠金額は、取引総代金の 10%です。

――
金融商品取引業 関東財務局長（金商）第 2797 号
【加入協会】日本証券業協会　　一般社団法人 金融先物取引業協会
株式会社マネースクエア
――

© MONEY SQUARE, INC.
This Report is for Authorized Recipients Only and Not for Public Distribution.